

2015春 住まいの特集

# 長く住み続けるために

家族の歴史を刻んできたマイホームも、ライフサイクルによって住まい方が変われば、見直しに迫られます。今回は長年住んできた家に手を加え、新たに生まれ変わらせるリフォームやリノベーションについて考えます。新築住宅を購入した後は、家との付き合いが始まります。大切に、長く住み続けるという発想で、わが家を点検してみませんか？



古民家の雰囲気を残し、現代風に再生されたバーレさん宅



天井が高く開放的なリビング。天井の梁は古民家の名残り

## 「再生」で古民家に価値

龍ヶ崎市 バーレ・ルッツさん、操さん邸

かつて宿場街道として栄え、現在でも古い民家の多い龍ヶ崎市若柴町。築後100年が経過した古民家を、環境への負荷や快適さ、ライフスタイルに合わせて再生させたのが、バーレ・ルッツさん、操さん夫妻の自宅だ。日本の気候風土に寄り添いながら、その土地にあり続けてきた古民家。どっしりとした風格を残しつつ、現代風に生まれ変わった住まいは、これまでの100年に新たな価値を加えた。

バーレさんはドイツ出身。日本に比べ古い建物が多いドイツでは、リノベーションしながら長く住み続ける文化が定着しており、マイホームを持つなら「築後80年以上の古い民家」が希望だったという。夫婦が住宅購入を考え始めた頃、出会ったのが散歩コースで奥かけていた現在の民家。木造平屋に2階建てを増築した構造で、老朽化が激しく大規模な改修が必要だった。

修復の際に出した夫婦の条件は、夏涼しく冬暖かい室内環境。畳から椅子での生活に変え、キッチンが家の中心というドイツの考え方に沿って使い勝手を重視した。水戸市のカナサワ建築設計事務所が担当し、LDKは低い天井を取り払い、古い梁が見える開放的な空間に。弱点だった寒さ対策は、二重窓に加え、床下には蓄熱式床暖房を設置することで年間18〜24度の室温を保つよう調節されている。

「持続可能な建築である古民家の再生は、地球や人に負担の少ないデザイン」と代表の金澤重雄さん。バーレさん夫妻がこの家で暮らして10年目。操さんは「毎日を快適に過ごすことができ、本当に満足している」と話している。

### INDEX

- 6、7面 特集 広がる住まいの選択肢  
～リフォーム・リノベーション～  
建築士アドバイスなど
- 8、9面 キッチンのリフォーム  
お宅拝見など
- 10面 ファイナンシャルプランナーに聞く  
知っ得! リフォーム支援隊